



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

## 巻頭言 近隣と仲良く

歯科放射線学教室 岡野 友宏

いまや韓流がブームである。古くは大陸の文化が朝鮮半島を經由してわが国にもたらされたことを思えば、日本人はもっと朝鮮半島に興味を持っていいはずだが、残念ながらこの100年余りの両国の関係は穏やかなものではなかった。しかし、これは長い歴史の上から見ればほんの一瞬の不幸なできごとであったと考えるべきで、近未来的には、昔のように対等で、わだかまりのない交流がもたれる日の来ることが期待される。ワールドカップサッカーの共催はその大切な一歩であったし、最近のブームはそれを後押しするだろう。私たちの大学はソウルの Kyung Hee 大学と学術交流で連携し、また歯学部長が直接、訪問したことは意義深いことである。大切なことは年1回、教員や学生の相互訪問が継続的になされることである。単なる表敬訪問ではなく、共同研究や授業に参加する実のある交流にしたい。最近、韓国の国立大学歯学部は高卒ではなく大学卒業生を入学させる、いわゆるデンタルスクール化するという。米国は古くから医学部や法学部と同様、歯学部も学卒者に入学資格を与えているので、それに準じたということであろうが、私は関係者たちの並々ならぬ「決意」と受け止めたい。韓国の歯学部には比較的、学力の高い学生が入学すると聞いた。しかし必ずしも卒業時点で満足のいく歯科医師が教育されていないのかもしれない。実際、国際学会などで活躍する韓国人も多い中で、平均的な教育・研究レベルは高いとはいえない。英語でのコミュニケーションレベルは思ったほど高くない。日本に追いつくことを目標に頑張ってきたものの壁にぶつかり、そのブレークスルーとしてデンタルスクール構想が持ち上がったのではないかと想像する。日本も悩んでいるが、韓国の歯学部も厳しい生存競争の中にあることは確かなようである。そうであればこそ、韓国の大学にとっても、わが国の大学と交流をもち、同根の東洋人として医学・歯学教育、医療・歯科医療を語り合う仲間を得ることに意味がある。ソウルの Yonsei 大学は10月中旬、東歯大に10名余りの教授を1週近く滞在させ、今まで以上の交流を推し進めている。交流が深まれば、これが世界を知ることの第一歩になることに気づく。そのときに初めて、どこかで盛んに叫ばれているように、グローバルな視点で歯学教育、歯科医療を見通すことができるようになるだろうし、それが現在の歯学教育・歯科医療における閉塞感を打ち破るヒントとなるであろう。そういう視点から、私は今の韓流を単なる流行としてではなく、私たち自身の問題として捉えていきたい。



## 第8回歯科病院公開講座報告

公開講座委員 佐藤 裕二

10月15日(土)に歯科病院にて大田区の後援による第8回公開講座が参加者48名で開催されました。川和病院長の挨拶に続き、私が司会を行い、下記のタイトルの講演が行われました。

・いつ? どのように? いくらかかるか? 歯列矯正のすべて (歯科矯正学 榎 宏太郎 教授)

日頃、お持ちになられている疑問の多くにお答えできるように様々な症例で、いつ、どのように治すのか、費用や時間はどのくらいかかるのか、最新の治療法も含めて紹介されました。

・健康増進、歯周病と全身のつながり

(歯周病学 山本 松男 教授)

健康増進のために、生活習慣病の一つに挙げられている歯周病がどのように全身の健康に関わるのかを、最新の研究報告を交えてお話しされました。

参加者はベテラン揃いでしたが、新々気鋭のお二人のわかりやすい講演にうなずきながら聴き入っていました。また、活発な質疑応答が行われました。

その後、場所を3階の診療室に移して、希望者対象の口腔清掃の指導が歯科衛生室のスタッフにより行われました。ここでも多くの質問が出され、参加者の意識の高さに驚きました。来年度以降もさらに充実した地域住民とのつながりを構築できるよう、公開講座委員としてがんばらなければならないと強く感じた次第です。



## 学会開催のお知らせ

広報委員長 五十嵐 武

・久光 久 大会長(齶蝕・歯内治療学講座教授)

日本歯科保存学会50周年記念大会ならびに2005年度秋季大会(第123回)

2005年11月23, 24, 25日, 東京国際フォーラム

## 海外研修体験記 (アデレード大学)

歯学部3年 森田 麻友

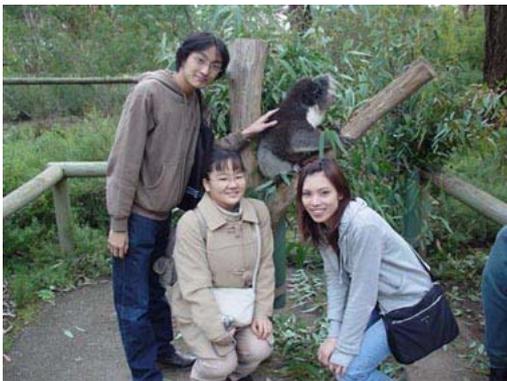
アデレード(Adelaide)大学で3週間、PBLを始め、基礎実習、臨床実習を1年生から5年生までそれぞれの学年を通して体験してきました。オーストラリアは日本と異なり、5年間のコースを終えた後、すぐに社会に出て1人立ちをします。3年生から親戚や友人の治療をし、4・5年生では先生の確認はあるものの、ほとんど1人で患者を診ることが出来ます。私と同じ学年の学生でも、自分の力で「材料」を選び出し、自分の判断で治療を行っていくので、責任感がありより大人っぽく感じる場面も多くみられました。

私が3週間滞在してアデレード大学の歯科学生から受けた印象は、学生が低学年から臨床と密接に関わり、意識を高く持



ち、あらゆる問題を自己解決する能力を持っているということです。この問題解決能力が高いのは、1年生から導入されているPBLによるものなのではないでしょうか。実際私も参加して、生徒が様々な意見を交わしながら知識を習得していくと共に、様々な考えに触れていくことは、視野を広げることで非常に意味のあるものだと思います。先生に質問をするときでもただどうすればいいのかを聞くのではなく、「もしここが臨床ならば、自分はこうするけれども、その判断は正しいのか?」というような質問の仕方をします。物怖じせずに質問をし、常に高い目的意識を持っていました。患者と触れ合う機会が現時点ではなく、目の前にある課題をただただ一生懸命に取り組むことに必死になっていた私にとって、今回の留学は、視野を広げると共に、将来のことをより明確に考える大きなきっかけともなりました。

アデレードは小さな街ですが、治安が良く皆が親切でとても過ごしやすい街でした。3週間という短い間でしたが、この3週間は私にとって非常に有意義で充実した毎日でした。最後になりましたが、この貴重な体験をする



場を与えて下さり、支えて下さった先生方に深く感謝致します。

## 旗が岡祭・いぶき祭

学園祭実行委員 歯学部4年 葭澤 秀一郎

10月14・15・16日に昭和大学(医・歯・薬・保健医療学部)による「旗が岡祭」、看護専門学校による「いぶき祭」が行われました。今年度の学園祭のテーマは「Explosion der stille」、日本語では「静寂の爆発」となります。参加する学生の人間性を爆発させようというのがテーマの意味です。

これら学園祭では多くの部活や団体が模擬店、コンサート、ステージでのイベント、個展、献血などに参加して盛り上がりました。その中で歯学部特有の活動といえばやはり、歯科医療研究会の『歯科健診・お口の健康チェック』であったのではないのでしょうか。毎年恒例の歯科健診に加え、口腔の乾燥度や歯ぐきの健康度などのブースも増え、来場者の方々はより口腔への関心を高められ笑顔で帰られていました。

また、こちらも恒例の「昭和大学名人会」も柳亭左楽師匠を始め、9名の落語家を今年もお呼びして行われました。地域住民の方や遠路遙々いらした方など大勢の方に一流の寄席を楽しんでいただくことができました。



## 歯学部1年生早期体験実習報告

口腔衛生学教室 村田 尚道

歯学部1年生の早期体験実習は、医療人としての人間関係を築く基本的態度を身につけ、社会の多様な場における歯科保健・医療に対応できる能力を養うことを目的に、10月3日から7日まで甲府の7施設(養護学校、知的障害児通園施設、重症心身障害児者病棟、身体障害者療護施設、介護老人福祉施設)を実習先として実施されました。午前9時から午後4時半まで各施設での実習を行うため、毎日朝7時前に富士吉田の寮から大型バス2台に分乗し、夕方6時半前に帰寮するハードなスケジュールでしたが、事故もなく無事終了することができました。本実習も今年で3年目となり、最終日の実習を総括するSGDおよび実習報告会では、初めて体験する施設の雰囲気への戸惑い、コミュニケーションの難しさと反応が返ってきた時の喜びなど、苦しくも楽しい早期体験実習に学生の満足感が漂った発表がなされました。実習は、歯科薬理、高齢者歯科、小児歯科、口腔衛生が分担して早朝からの引率と指導を担当しました。交通手段の手配やSGDの教室準備など、実習期間を通じて教務課の皆さんの大変な努力と協力によって、本実習が行われたことをお知らせすると共に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

## 国際口腔外科学会報告

顎口腔疾患制御外科学教室 伊東 大典

第17回国際口腔外科学会(ICOMS)が、2005年8月29日より9月2日までオーストリアの首都ウィーンで開催されました。本学会は隔年開催であり、今年はウィーン医科大学頭蓋口腔学顔面外科のRolf Ewers教授の下、全世界から数多くの出席者と高水準な演題が集まり、会場となったウィーンの王宮(Hofburg)の広大な空間は、会期中大変な熱気で充満していました。中でも、学会場と市内のウィーン総合病院手術室を結んでのテレナビゲーションによるインプラント埋入や顎関節手術の実況中継、また最新の機器や最先端の生体材料に触れることができた企業展示に特に興味を引かれました。当教室からは南雲教授以下9名が出席し、口演2題、ポスター2題の計4演題を発表しました。日本国内の他大学からも多くの演題が出されていたことに驚き、かつ心強く思った次第です。学会もさることながら、爛熟の文化を誇るウィーンとオーストリア国内の観光、オペラや音楽会、美味しい料理と酒を十分に堪能できたことを付記しておきます。2007年の同学会はインドのバンガロールで開催される予定です。関連分野の諸先生方のご出席を期待いたします。



## 第6回国際矯正歯科学会報告

歯科矯正学教室 山口 徹太郎

第6回国際矯正歯科学会議(6th International Orthodontic Congress)がフランスのパリにて9月10日から14日に開催されました。この会議はWorld Federation of Orthodontistsが5年に一度、開催するものです。World Champion Lectures 7演題、Lecture 120演題、Clinical Research 64演題、Poster Presentation 627演題と非常に大きく、また大変盛況なものでした。歯科矯正学教室からは、私がLectureとして“Genome-wide linkage analysis of mandibular prognathism in Asians”を、綿引先生がClinical Research Oral Presentationとして“Gene expression changes of mice condylar cartilage correlates with mastication: by means of laser microdissection and cDNA Array”を報告させていただきました。矯正医であれば誰でも知っている大御所というべき先生方の講演を聞く機会を得ることもできました。

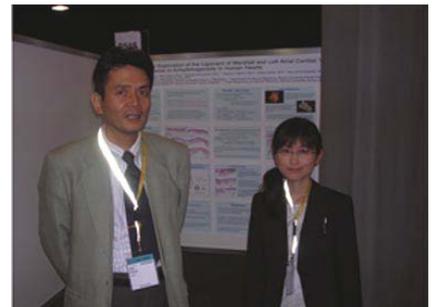
次回は2010年2月6日から9日までオーストラリアのシドニーでの開催が予定されています。



## 欧州心臓学会報告

総合内科 井上 紳

9月3日から7日にスウェーデンのストックホルムで開催されたヨーロッパ心臓学会(通称ESC)に出席いたしました。この学会はAHA(アメリカ心臓会議)とならんで世界最大の学会のひとつです。AHAと同様に数か所のコンベンションセンターで持ち回り開催されますがお国柄の違う各国が集まって運営されるため独特の雰囲気があります。各会場には「アテネ」「アンカラ」「ベルリン」・・・と各国の首都名が振られヨーロッパに居ることを実感させてくれます。セッション終了後にはノーベル賞授与式がある市庁舎でパーティやコンサートが開催されました。今回は第二病理の牧野先生と第三内科の松山先生らと2題発表しましたが参加者が多い割に会場の運営がスムーズで充実した学会でした。特に自分の研究テーマである心臓病理学は連日ライブデモンストレーションが行われ、とてもよい経験になりました。9月の北欧なので天候を心配しましたが会期中は晴天に恵まれ日中は汗ばむほどでした。北欧で開催される学会の問題点はホテルのキャパシティと物価の高さで、何とか押さえられた部屋はバス・トイレ共同で一泊1万3千円と冗談のような値段でした。聞くところによれば部屋に窓があっただけ幸運らしいです。次会はスペインのバルセロナです。



## 行事予定

広報委員長 五十嵐 武

- 11月 5, 6日(土, 日) : 第2回昭和大学歯科病院  
臨床研修指導歯科医師講習  
会ワークショップ
- 11月 9日(水) : 武重優秀クラブ賞表彰式
- 11月 13日(日) : 歯学部推薦・編入学試験
- 11月 15日(火) : 昭和大学創立記念日
- 11月 19日(土) : 第1回PBLファシリテータ養成  
ワークショップ(歯科病院)
- 11月 26日(土) : 昭和大学父兄会秋季部会  
(旗の台キャンパス)
- 11月 29-1月 17日(火, 6回) :  
歯学部3年生歯科病院見学実習  
(歯科診療の基本・実習)
- 12月 3日(土) : 昭和歯学会例会(洗足キャンパス)
- 12月 1, 8, 12, 15日(木, 月) :  
歯学部2年生口腔の生態系PBL

## 日本口腔インプラント学会報告

顎口腔疾患制御外科学教室 倉地 洋一

第35回日本口腔インプラント学会総会が平成17年9月16日から18日までの3日間、弘前大学歯科口腔外科木村博人教授を大会長として弘前市で開催されました。メインテーマは「先進展開するインプラント治療 エビデンスとコンセンサスを求めて」であり、インプラント診療に関する社会的説明責任を果たす観点から、著名な外国人講師4名を含む内外19名の招聘講師による特別講演、シンポジウム、ワークショップが企画されました。また、課題口演、一般口演、ポスター発表など韓国からの発表も合わせて216題あり、熱心な研究発表と討論が行われました。さらに歯科技工士セッション、歯科衛生士セッション、市民フォーラムと多彩なプログラムが組み、インプラントをめぐる総合的な学術大会となりました。土曜日に開かれた昭和大学歯学部関係者の夕食会では、宮崎歯学部長をはじめ口腔外科、インプラント科、補綴科、高齢者歯科から25名以上の参加があり、各科の先生との親睦、インプラント治療についての意見交換がなされ、有意義なひとときを過ごすことができました。



## 第17回富士吉田公開講座報告

総合診療歯科 長谷川 篤司

平成17年10月15日(土)昭和大学富士吉田校舎1号館2階201号教室において昭和大学と富士吉田市教育委員会の共催による第17回昭和大学公開講座が開講されました。暮らしと健康をメインテーマとして平成3年から年1回開催されてきたこの公開講座は、受講者の意識も昂まり、昨年より年2回の開催となりました。今回は藤が丘病院整形外科渥美敬教授が「股関節痛-診断と治療」を、歯科病院総合診療歯科長谷川篤司助教授が「むし歯と上手につき合うには(早期発見、経過観察と接着歯学を活かしたMI)」をテーマとして、市民54名に対して講義を行いました。各講義後に設けられた30分ほどの質疑応答時間には、受講者の経験に基づいた疑問などが活発に質問され、市民の健康に対する学習意識の高さが感じられました。新しい情報を提供するとともに、個々の相談にも対応するなど、大学(病院)と市民とのコミュニケーションの場として有意義な3時間半となりました。



## 第47回歯科基礎医学会学術大会報告

口腔解剖学教室 近藤 信太郎

第47回歯科基礎医学会学術大会・総会は東北大学大学院歯学研究科の主催で、9月28日から30日に仙台市仙台国際センターで開催されました。解剖学、生理学、微生物学、生化学、薬理学の5部門からなる本学会は歯科基礎医学の研究者が部門を越えて活発に議論できる場を提供しています。583題の一般演題のうち、本学からは15題の発表がありました。12のシンポジウムが行われ、本学の教員はオーガナイザーあるいはシンポジストとして活躍されました。特別講演では須田立雄先生(本学名誉教授)が「『歯科医学における基礎研究』についての一考察」-45年間に亘る私のビタミンDと骨の研究を振り返って-と題して講演されました。学会に欠かせない夜の部では、中村雅典教授(口腔解剖学教室)の企画により昭和大学の懇親会が開催されました。30名あまりの関係者が出席し、仙台の味覚を楽しみつつ親睦を深めました。多数の教員と大学院生が活発に議論をし、歯科基礎医学における本学の存在感をアピールした3日間でした。



## 診療統計

	患者数	1日平均	前月 1日平均	前年 1日平均
外来患者	15,995	727.0	709.0	755.4
入院患者	368	12.3	17.6	17.9

平成17年9月分

## 編集後記

広報委員(口腔生化学教室) 須澤 徹夫

先日、日本を含む国際研究グループが「ヒトゲノム地図」を完成させた新聞記事を読みました。病気のかかりやすさや体質につながる、1塩基配列違いの重要な所在地を決定したとのことで、「オーダーメイド医療」が現実に近いことを実感させるニュースでした。

さて、歯学部だよりをお届けさせていただきます。科研費申請のこの忙しい時期に、急な依頼にもかかわらず執筆下さった緒先生方、ならびに不慣れな作業でご迷惑をかけた五十嵐委員長に深くお詫び申し上げますとともに、なんとか発刊に辿り着けたこと感謝いたします。ありがとうございました。